



APLA あいち防災リーダー会

西尾張ブロック第17号

平成23年3月25日発行

< 目次 >

- | | | |
|---|---------------------------------------|-----------------|
| 1 | 西尾張ブロック総会 開催 | 広報部 |
| 2 | 新年度を迎えて思うこと | ブロック代表 伊藤善之 |
| 3 | APLAメーリングリスト変更と登録推進について | ブロック事務局 河村文雄 |
| 4 | 阿久比町での防災講演会 | 一宮支部 矢野和宏 |
| 5 | 防災よもやま話 No.31
「NZ・クライストチャーチの地震に学ぶ」 | 名古屋大学大学院教授 福和伸夫 |
| 6 | お知らせ・掲示板 | |
| | ☆APLA本部定期総会 | ☆APLA一泊研修の旅 |
| | ☆名大防災アカデミー | |

1 平成22年度西尾張ブロック総会が開催されました 広報部



平成23年3月19日(土)午後1時半より、稲沢市民会館3階 研修室において西尾張ブロック定期総会が開催されました。来賓には稲沢市総務部次長兼生活安全課長の魚住房雄様をお迎えし、ご挨拶の中で11日に発生した東北地方太平洋沖地震について、この地方の行政としての支援の取り組みや、防災リーダー会への期待などをお話いただきました。

総会は出席者40名、委任状65名によって成立し、平成22年度の事業報告・決算及び監査報告、新年度の役員選出、平成23年度の事業計画案と予算案が審議され、原案通

りに可決・承認されました。

新年度のブロック役員には下記の皆さんが選任されました。

役職名	氏名	役職名	氏名
代表	伊藤 善之	研修部長	尾関 博
副代表	安田 裕典	会計	森 千代子
事務局	河村 文雄	会計監査	川村 荘一郎
広報部長	杉浦 緑	会計監査	高木 優

また、新しく会員になられた方々も自己紹介で挨拶をし、会場の大きな拍手と期待を受けて仲間入りをしました。

23年度の西尾張ブロックは総勢128名での出発となりました。



クロスロード研修会

総会後には、第2部として「クロスロード研修会」が参加者全員で行われました。

平時は勿論、災害時には決断しなければならない場面に出くわすことが多くあると思います。そんな時、どのように対処していくのが良いかをグループみんなで考えていくゲームでした。クロスロード、これは正に決断の分かれ道で思案することでした。

進行の尾関 博 研修部長の説明の後、それぞれが「YES」・「NO」のカードを2枚ずつ持ち、出された課題について自分ならどうするのか、グループの人はどう考えているのだろうかを推測してカードを出します。初めてのゲームで最初は戸惑いもありましたが、「YES」・「NO」のどちらについてもそれぞれの決断の理由を聞き、お互いの考えについて話し合いの機会をもてたことは大きな収穫でした。

防災リーダーとして、いざというときにどのように活動していくべきか判断するために、真剣に意見を交わしながら時には大爆笑などもあり、充実した時間を共有できました。





2 新年度を迎えて思うこと

ブロック代表 伊藤善之

3月19日（土）稲沢市民会館にて西尾張ブロック総会が開催され、新役員選出で三度下名がブロック代表に選出されましたことを大変重く受け止めております。尾張ブロックから東尾張・西尾張ブロックに分離して5年目を迎えます。昨年度あいち防災リーダー養成並びに各市町の防災リーダー研修を経て、約25名の新会員を西尾張ブロックに迎えられたことを大変喜ばしく思います。新会員を迎えてこそ当会の若返りが図れます。

さて、3月11日（金）14時46分、東北三陸沖で最も恐れていた東日本大震災が発生しました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。当時私は岡崎で防災関連の打合せの途中でしたが、ゆっくりした且つ長い揺れでしたので少し大きな地震かなと思いました。携帯電話に地震速報が入ったのでテレビをつけたところ、地震被害の様子が次々と映し出され、しかもその後携帯電話への地震速報が何度も入り余震の多さからも大地震であったことがわかりました。そのうち津波が三陸海岸に押し寄せ、最初は漁船を岸に押し付けるようでしたが、更にその波が家や車などに衝突し、漁船や家や車が浮いて流され、拡大していく様はスローモーション映画を見るようでした。今回の大地震はプレート境界で発生した日本では過去最高のM9.0の巨大地震で、死者・行方不明者が2万4千人を超える最大の原因は、**想定以上の大津波**でした。この大津波は2004年のスマトラ沖地震より、三陸特有のリアス式海岸の谷間を予想以上に高く駆け上がったようです。大変痛ましかったのは、海岸の市町の数多くが壊滅状態になったことです。今回の大地震で、町の造り方は大きく見直されるでしょう。多くの公共の施設は、もっと高台につくるべきだと思います。

更に今回の大津波は福島第一原子力発電所を襲い、1号～4号機を次々と再起不能に陥らせるだけでなく、日本ではかつてない**炉心溶融**という**放射能汚染**を発生したことです。1号～3号機を地震で自動停止させるまでは予定通りでしたが、津波により冷却水を供給する電気を停電させただけでなく、非常用電源まで使用不能とさせ、燃料棒を冷やすことができなくなったことが最大の原因です。現時点でもまだ完全に冷却させるまでに至らず、これが緊急の課題です。原子力発電所や火力発電所が被害を受けたため、出力低下となり関東圏・東北圏の電力会社による計画停電は市民生活や経済界に大きな影響を与えるでしょう。

特に痛ましいのは、安否確認がなかなかできず行方不明の方が大変多いことです。地震・津波だけでなく原発事故による避難も重なって情報がうまく伝えられなくなっています。もっとよい方法を考える必要があります。また、被災者の心のケアも大変重要です。食料や水の補給、ライフラインの復旧、救援物資の配達、ボランティア支援など、この災害が落ち着いた時、みんなで今後どうあるべきかを再検討する必要があるでしょう。

今回の地震で、東海地震や東南海地震が一層切迫して来ました。同じような大きな地震がきたら我々は生き残れるでしょうか。何としてでも生き残るため英知を絞りましょう。



まず何を実施すべきか、家の耐震、家具の固定、家族の伝達方法、非常食・飲料水の確保、地域の防災訓練参加、災害要援護者の支援などすべきことはたくさんあります。今年度は、確実にできることを一つ二つ目指して頑張りましょう。

3 APLAメーリングリスト変更と登録推進について

APLA-IT運営委員長・西尾張ブロック事務局 河村文雄

平成19年8月に開設したAPLA-ALLのメーリングリストが、グループページの修正（具体的には、会員の登録・変更）ができなくなったため、APLA役員会にて、APLA-IT運営委員会を発足させ、Yahoo!グループを活用し、平成22年6月に新しいメーリングリストを開設しました。

これまでとの違いは、次の通りです。

- ・各ブロックからのAPLA-IT運営委員を中心に、各ブロックでもグループページを発足させた。
- ・本部のメーリングリストも、各ブロックの運営委員で登録・変更を行うこととした。
- ・携帯メールの会員にも対応した。
- ・本部・ブロックからの情報提供をメインにするため、メッセージの送信を許可制とした。

旧メーリングリストが140名登録に対し、新しい方は約250名登録で現在運用中です。

知多ブロックでまだ未登録の支部があるため、その登録を含め、新年度はAPLA会員の半数以上の登録を目指しています。

パソコンが使える方はもちろん携帯のメールを使える方も、是非メーリングリストに登録し、いろいろな情報を入手・活用していただきますようお願いします。

また、Yahoo!グループにはメーリングリストの他にもブリーフケース・カレンダーなど、有効な機能があり、情報提供をしていますので、登録済みの皆さんも配信されたメールを読むだけでなく、積極的な活用をお願いします。

4 阿久比町での防災講演会

いちのみや支部 矢野和宏



平成23年3月5日に、知多ブロックの招待で知多郡阿久比町にて「防災講演会」を行いました。

阪神・淡路大震災の災害ボランティアに行った時の話や、岡崎の水害時・中国四川省の地震の復興支援ボランティアの経験をお話させていただきました。

下の写真は、その時使用した四川大地震支援ボランティアの時に写したものです。



<6階建てマンション>



<炊き出しでトン汁>



<瓦礫の注意書き>

私自身は、上右側の写真に思い出があります。この瓦礫の下にはまだ5千名余りの方々が埋まっており、一宮市広報編集委員時代にも、右の2010年9月号広報 わたしたちのページに掲載しました。



5 防災よもやま話 No. 31 NZ・クライストチャーチの地震に学ぶ 名古屋大学大学院教授 福和伸夫

APLAの皆さん、こんにちは。

私どもは、今、新しく作った減災連携研究センターを軌道に乗せるため、色々活動中です。減災連携センターのことにつきましては、3月26日の午後に名古屋大学の1B電子情報館大講義室で開催する減災連携シンポジウムで、お披露目をする予定をしておりますので、是非、奮ってご参加ください。当日は、センター設立の趣旨や組織の概要、今後の活動方針などについてご報告すると共に、内閣府防災担当の越智参事官、文部科学省地震防災研究課の鈴木課長、愛知県防災局の中野局長、海洋研究開発機構の金田リーダー、防災科学技術研究所の藤原リーダー、中部電力の服部部長、東邦ガスの笠井部長、NHKの山口アナなどにもご参加頂き、今後の防災研究や連携のあり方、センターへの期待と苦言など、お話しいただく予定であります。シンポジウムの後には懇親会も予定しています。

さて、今回は、2月22日にニュージーランド・クライストチャーチを襲った地震について考えてみたいと思います。

ニュージーランドは日本と同じようにプレート境界に位置する島国です。ここでは、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートが接していて、ニュージーランドの真ん中を南北にプレート境界が走っています。北島では太平洋プレートがオーストラリアプレ



ートの下に潜り込み、南島では逆にオーストラリアプレートが太平洋プレートの下に潜り込んでいるそうです。

今回地震被害が発生したクライストチャーチは、このプレート境界から東に離れた場所に位置し、カンタベリー平野というところにあります。このため、従来は、クライストチャーチは、あまり地震が起こらない地域と考えられていたようです。耐震性の無い煉瓦造の建物が立ち並ぶ古くからの町並みが維持されていたのもうなずけます。

今回の地震では、堆積層の下に隠れていた活断層が活動したと見られています。この断層の地震発生間隔は1万4千年以上という報告もあります。マグニチュードは6.3と余り大きな地震ではありませんが、震源が5kmと浅く、かつ、クライストチャーチのごく近傍で起きたため、強い揺れが直接クライストチャーチの町を襲ったようです。昨年9月に発生したダークフィールド地震(Mw, 7.1)の震源域の東端がずれ動いたとも言われています。

日本人留学生が通っていたキングスエデュケーションのあったCTVビルは、9月の地震で構造的な被害が出ていたという報道もされています。この建物は、壁で囲われたエレベーターホールが建物の隅の位置にあり、柱が細く、柱間隔も大きく、壁が不足したりしていたことなどが指摘されています。柱ばかりで、袖壁や腰壁・垂壁がなく、壁が偏った位置にあると、建物全体が壁のあるところを中心に揺れ、壁とは反対側の柱が大きく変形し、上からの重さに耐えかねてドミノ倒しのようになって、隙間無くパンケーキ状に倒壊してしまいます。

キングスエデュケーションのように、人が集まる建物が倒壊すると多くの犠牲者を出すことが分かります。また、言葉が不自由な外国人にとっては、災害時には苦勞が多いことも見てとれました。

町の中では、大きく倒壊した大聖堂を始め、煉瓦でできた建築物が大きな被害を受けていたようです。一般に煉瓦造の建物は重さを支えるのは得意ですが、地震のように横からの力は苦手です。

そもそも、クライストチャーチの町は、エイボン川沿いに広がる沼地を19世紀に埋め立てて作った町のようなようです。このため、地盤が軟弱で、それが揺れを大きくしたと考えられます。さらに、砂でできた地盤が泥水のようにになってしまう液状化現象も広い地域で発生したようです。中には吹き出した土が50cmも積もっていて、車両が土に埋まっている様子も報道されていました。

こういったクライストチャーチでの様子は、私たちの地域に当てはめると多くの教訓が得られます。是非、ニュージーランドでの被害に学んで、私たちのまちをより安全にしていきたいと思います。

まず、今回の地震は、1945年1月13日に発生した三河地震(M6.8)に似ていることに気がつきます。三河地震を起こした深溝断層の活動間隔は約2万~3万年とされていて、それまでは活断層の存在が分かっていた場所です。この地震は、1944



年12月7日に発生した東南海地震（M7.9）の直後に発生しました。町の直下の活断層の地震だったこと、戦時下でもあり、東南海地震で被害を受けて弱っていた建物を修理する前に地震が襲ったことなどのため、多くの建物が倒壊しました。特に蒲郡の形原や安城などで大きな被害を出しました。地震規模が遙かに大きい東南海地震に比べ、2～3倍の犠牲者を出してしまいました。

マグニチュード6クラスの地震は日本では毎月のように起こっています。日本の場合、マグニチュード8クラスの地震は10～20年に1つ程度、7クラスの地震は1～2年に1つ程度、6クラスの地震は1～2ヶ月に1つ程度発生しているように思います。一般にマグニチュード6クラスの地震では地表には断層が現れないので、活断層の存在が分かっていない場所で発生する可能性が高いと思われます。特に、名古屋市西部のように沖積地盤で覆われている場所では、活断層の存在は良く分かっていません。堀川の下や鶴舞の下などには、推定断層の存在も指摘されているようですから、名古屋でもクライストチャーチと同様、直下でマグニチュード6クラスの地震が発生する可能性は否定はできないと思います。

揺れの強さは、地震の規模、震源からの距離、地盤の硬軟、によって変わります。地震規模が小さくても、震源域からの距離が近く、地盤が軟弱だと強い揺れとなります。堀川の西に広がる沖積低地には、江戸時代までは葦原が広がっていたので、クライストチャーチと同じように強い揺れに見舞われる危険性は十分にあります。

こういった地域では、液状化の危険性も高くなります。液状化をすると、建物に作用する揺れは一般に小さくなるので、建物そのもののダメージは減ります。しかし、建物の基礎周りの被害が増えてきます。また、液状化によって地下のライフラインが被害を受けたり、泥水などで車両の通行が困難になったりし、災害発生後の消火・救急救命などの対応が困難になることも予想されます。

煉瓦造の建物については、当地でも120年前に発生した濃尾地震のときに大きな被害を出しました。地震とは無縁の西洋から導入した煉瓦造の西洋建築物の多くが1891年濃尾地震や1923年関東地震で倒壊し、その後、我が国の耐震工学の研究が始まりました。当地の場合、すでに濃尾地震や東南海地震で耐震性の不足する煉瓦造の多くが壊れているため、同様の被害は起きにくいと考えられています。

また、CTVビルと同様に、壁が不足する建物や、壁が偏在しているバランスの悪い建物が散見されます。昔と比べると、ガラスだらけで壁が少ない建物が多いことは少し気になっています。やはり、「強無くして用無し、用無くして美無し」とう建築の基本に立ち返って、耐震的な建物にしておきたいと思います。

耐震診断を通して、耐震性が不足する建物を早期に見つけ、適切に耐震補強をしなければいけません。また、学校や病院のように多くの人が集まる建物は通常の建物以上に耐震性を増しておくことの大事です。当地の場合、学校や防災拠点の耐震化は全国的にももっとも進んでいると思いますが、医療施設の耐震化は相当に遅れていますので、早期の耐震



改修が望まれます。

また、当地には、日本語が不得手な外国人が沢山居住しています。彼らはある意味では災害弱者とも言えます。普段からのコミュニケーションや語学ボランティアの大事さが良く分かります。また、医療や救助の力の不足は当地も全く同様です。大きな災害時には平時の医療や消防の力では全く足りません。少しでも未然に災害を防ぐ努力をする必要があります。

一般に大きな地震災害では、人口の0.1%程度の方が犠牲になるようです。今回の地震はM6.3と比較的小規模の地震でしたから、30万人の町で200~300人の方が犠牲になったようです。300万人程度が居住している阪神地区では6千人余りの犠牲者を出しました。今後私たちが経験する東海・東南海・南海地震では数千万人の国民が被災します。そうすれば数万人の犠牲者となるでしょう。クライストチャーチの100倍規模の災害となります。そのとき、我が国がどのようになるか容易に想像できると思います。

確実に巨大地震を経験する未来の子供たちを不幸にしないため、今こそ、私たちが災害被害軽減のために頑張るときだと思います。備えないことが恥ずかしいと思う国にしなくてはいけません。そのために、多くの人たちを啓発する必要があります。そのリーダーが、APLAの皆さんです。どうぞ、これからも宜しくお願いします。

6 お知らせ・掲示板

☆ 第9回あいち防災リーダー会定期総会

日時：平成23年4月24日(日)13:00~16:30

場所：名古屋港湾会館 2階 第1会議室
名古屋市港区入舟町2-1-17

第2部では、ブロック活動事例発表(海部・知多・西三河ブロックを予定)と、名古屋大学大学院教授 福和伸夫教授の講話があります。

APLA本部の総会は、役員・代議員制ですが傍聴は大歓迎です。

参加ご希望の方は、支部幹事経由で事務局 河村までお申し出ください。



☆ 平成23年度APLA一泊研修の旅
「淡路市北淡震災公園と中央構造線(三野断層)を訪ねて」

期 日：平成23年7月8日(金)～7月9日(土)

参加費：一人24,000円

定 員：40名

行 程：8日(金)名古屋駅発 8:00—北淡震災公園(昼食・研修)—琴平温泉宿泊
9日(土)気象庁「三野断層視察」9:30—霊山寺—鳴門北(昼食)—名古屋 19:00

参加希望者は、支部幹事経由で事務局 河村までお申し出ください。

☆ 名古屋大学防災アカデミー

会場は名古屋大学 環境総合館1階 レクチャーホール
参加費無料で、事前予約もありません。直接会場へどうぞ

第68回「揺れをはかる」

—安全・安心な都市空間を見守る振動モニタリング技術—

講師：飛田 潤(名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)

日時：4月27日(水)18:00～19:30

第69回「地震リスクに知で備える」

—防災科研における地震災害軽減にむけた取り組み—

講師：藤原広行(独立行政法人 防災科学技術研究所 総括主任研究員)

日時：5月18日(水)18:15～19:45

編集後記

ブロック総会も終り、また新しい年度が始まろうとしています。
2年間、広報担当者としてたくさんのお話を学びさせていただきました。
ご協力いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。 森